

2001年度 原子核三者若手 夏の学校 三者総会議事録

文責：2001年度 三者事務局（東京大学）

目次

1	活動報告・会計報告・承認	1
1.1	セクハラ WG 活動報告	1
1.2	準備校 (東北大学)	1
1.3	三者センター校 (大阪大学)	2
1.4	事務局 (東京大学)	2
1.5	名簿校 (大阪市立大学)	2
2	議題	2
2.1	規約 WG 設置議案 (2002年度センター校 [京都大学])	2
2.2	繰越金問題 (2002年度センター校 [京都大学])	4

1 活動報告・会計報告・承認

1.1 セクハラ WG 活動報告

総会が始まる前に、セクハラワーキンググループ (セ WG) からの活動報告があった。主な内容は以下のものである。

- 今年度の夏の学校では男女別フロアにした
- 茶話会を催した。そこで出た意見として
 - － 窓口に女性がいて欲しい
 - － 窓口そのものの存在に抑止効果がある
 - － 酒を飲む部屋と泊る部屋を分けて欲しい

などがあった。

最後に、来年度窓口を担当する有志への呼びかけがあった。

1.2 準備校 (東北大学)

活動報告がされた。ここで、ポスター印刷代は基研の援助によるものであり、残金は基研に返却され繰り越されない事が確認された。

Q. 議案書中に「ポスター代をなるべく多く使おうとした」という表現があるが、なるべく多く使いたい理由は何か。

A. 予算申請時の調査不足により 10 万円と多すぎる予算を取ってしまった。取ったからには予算を使い切りたいと思い、そのような表現になった。(準備校)

supplement. 基研への予算申請は 10 万円単位である。(センター校)

Q. ポスター代を安くあげたらいくらになるのか。

A. ポスター印刷会社の選定等は基研に任せきりなので分からない。

次に 2001.7.6 現在の決算見積もりが報告された。ここで、黒板、OHP のホテルのリース代の予算の引き継ぎが上手くいかなかった事が報告された。また、議案書中のポスター代についての記述で「得」という表現が不適切だという指摘に対する詫びがあった。最終的な決算報告は秋の学会で行う。

1.3 三者センター校 (大阪大学)

活動報告と 2001.7.6 現在の決算見積報告がされ、承認された。また、夏の学校でのアンケートは対外団体への報告・援助要請をする上で重要な資料となるものである事を理由として、参加者のアンケートへの協力が呼びかけられた。最終的な決算報告は秋の学会で行う。

Q. RCNP に新たな援助要請をする目的は何か。

A. 現在夏の学校は素粒子論グループ、高エネルギー研究者研究会議、原子核談話会、及び基礎物理学研究所から援助をうけている状況である。このような状況の中で RCNP のセンター長から、若手の活動をより円滑に行うために、RCNP、KEK、宇宙線研に対しても援助申請をしてはどうかとの助言を頂いた。これを受けて、RCNP、及び他の共同利用研 (KEK、宇宙線研等) に対して、新たに援助要請を行うこととなった。

1.4 事務局 (東京大学)

活動報告と会計見積報告がされた。以下の大学が役職を担当することが承認された。

2003 年度三者事務局	新潟大学
2003 年度 ML・HP 管理校	広島大学

但し、名簿校は当初の議案書にある 2 大学は取りやめになり、秋の学会に承認が先送りされた。各役職校に対しては引き継ぎ manual の整備を進めて欲しいという呼びかけがされ、一般参加者に対しては公開された manual を見て仕事内容を知って欲しいという呼びかけがされた。また、総会の開催場所について、「事務局が予め提案し、反対が無ければそれで決定する」という方法が提案され、承認された。

1.5 名簿校 (大阪市立大学)

活動報告・会計報告がされた。また、予備で作った 44 冊のうち 30 冊を夏の学校で販売したとの報告がされた。

2 議題

2.1 規約 WG 設置議案 (2002 年度センター校 [京都大学])

夏の学校において、

- 総会の決定事項に継続性がない
- 役職校以外の方が、夏の学校に対する意見を言うことが難しい
- 不祥事への対応が一貫しない

等の問題点を改善する為、規約の制定の可否を含め、どのような解決方法が適切かを議論する WG を設置する議案が提出された。WG での議論は ML ではなく掲示板で行う。

Q. 規約の拘束力はどの程度のものと考えているのか。

A. それを含めて、WG でこれから議論する。

Q. 問題とされている、「総会の決定事項に継続性がない」ことも、むしろ過去に囚われず柔軟に対応出来るという点で merit と考えられるのではないか。

A. 個人的には過去の経験を活かさないで問題が起こってからその場で対処するというのは時間の無駄と考えるが、それも含めて WG で議論する。

Q. これまでの話を聞く限り「規約 WG」という名称は不適切ではないか。

A. WG の名称は「規約 WG」とはしない事にする。新たな名称についてはこれから考えていく。

Q. 途中経過の報告はするのか。

A. するつもりである。

Q. 今ここで規約 WG を承認することにより、規約そのものの承認を済崩し的にしている事にはならないか。

A. たとえ WG の議論の結果として規約を制定することになっても、それ自体の承認は三者総会でされるので、そうはならない。

Q. この総会で規約そのものの可否を採決すべきではないか。

A. 現在まで規約についての議論が全く為されておらず、今規約そのものの可否を採決するのは困難である。議論を尽くす場として WG が必要である。

Q. 規約の内容について話し合う場と、規約の存在自体を話し合う場が同じところというのは、それでよいのか。

A. 規約そのものの可否についての議論を規約内容の議論に優先させる考えもあるが、一方で内容についての議論が無いと規約の可否を論ずるのが困難な面もある。

Q. ML でなく掲示板なのは何故か。

A. セ WG での反省点

- ML だと論点があちこちに飛んでしまう
- ML に登録されていない人には見ることができない

をふまえて、掲示板を用いることにした。

Q. ML でも技術的にその困難を克服することは可能である。また、ML だと掲示板に比べて見ていない間に話が進んでしまう、という事がないという merit があるが...

A. 今後検討する。

(規約)WG 立ち上げが挙手により賛成多数で議決された。

2.2 繰越金問題 (2002 年度センター校 [京都大学])

2002 年度センター校の京大より繰越金についての議案が提出された。

まず京大の側から、交渉の際の手違いにより、繰越金の存在を素粒子論委員会に対し実質的に知らせてしまった事に関連して、

1. 三者総会で議決をとる手続きを経ずにこのような行動を起こしてしまった事、
2. 外部団体への窓口である 2001 年度のセンター校を介さずに交渉を行なってしまった事で、外部団体に対し三者若手の運営が統一されていない印象を与えてしまった事、
3. 中途半端な情報を漏らしてしまったため、2001 年度の役職校、特に 2001 年度センター校大阪大学の窓口業務に負担をかけてしまったこと。

に対する謝罪があった。

繰越金の適正金額

現在の予算の状況、および繰越金問題の歴史的経緯が説明された。そして、

- 三者若手の予算規模が (ホテル代を除いて)200 万円程度であり、この金額以上の多額を保持していても無意味かつ危険である
- ホテルの前金等、運営資金として数十万円が必要である
- 一団体からの援助が 50 万円程度であるが、その金額が毎年もらえるか否かは不確定である。そのため、安定した夏の学校の運営には 100 万程度の繰越金があった方がよい
- 100～150 万円の繰越金額なら援助団体の理解が得られそう

という理由から、繰越金の適正な額が 100～150 万円であるという議案が提出され、承認された。

繰越金の存在の公表

繰越金の援助団体に対する公表の事後承認が求められ、承認された。

今後の方針

次に繰越金の問題に対する素粒子論委員会からの返答は、繰越金の

- 寄付、返却は論外
- 旅費補助にまわすなら援助削減
- それ以外の適切な使い道があれば例年通り援助しても良い

とのものであったという報告がされた。

さらにこの交渉結果を受けて、

- 今年は援助申請を行わない。但し事情説明の為の発表を行う。
- 2002 年の収入不足分 (約 100 万円) には繰越金をあてる
- 2003 年以降は現時点では決めない

を大まかな今後の方針とするとの提案があった。

この提案に対して、2003 年度のセンター校を 2002 年度のセンター校が補佐することが確認された上で、この方針は承認された。